

パワポ資料①-A

次期学習指導要領対応授業力向上研修

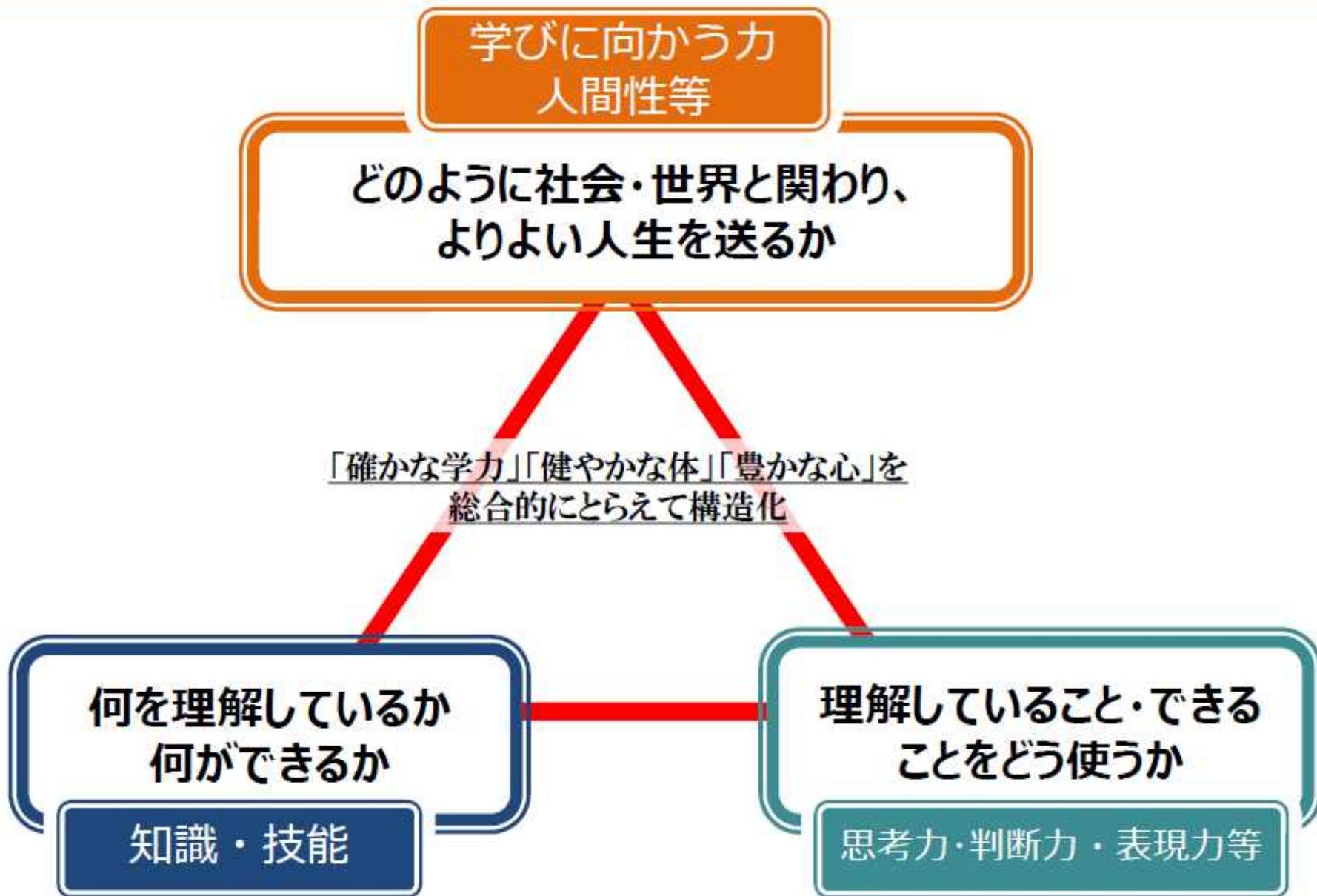


アクティブ・ラーニングの 視点からの授業分析

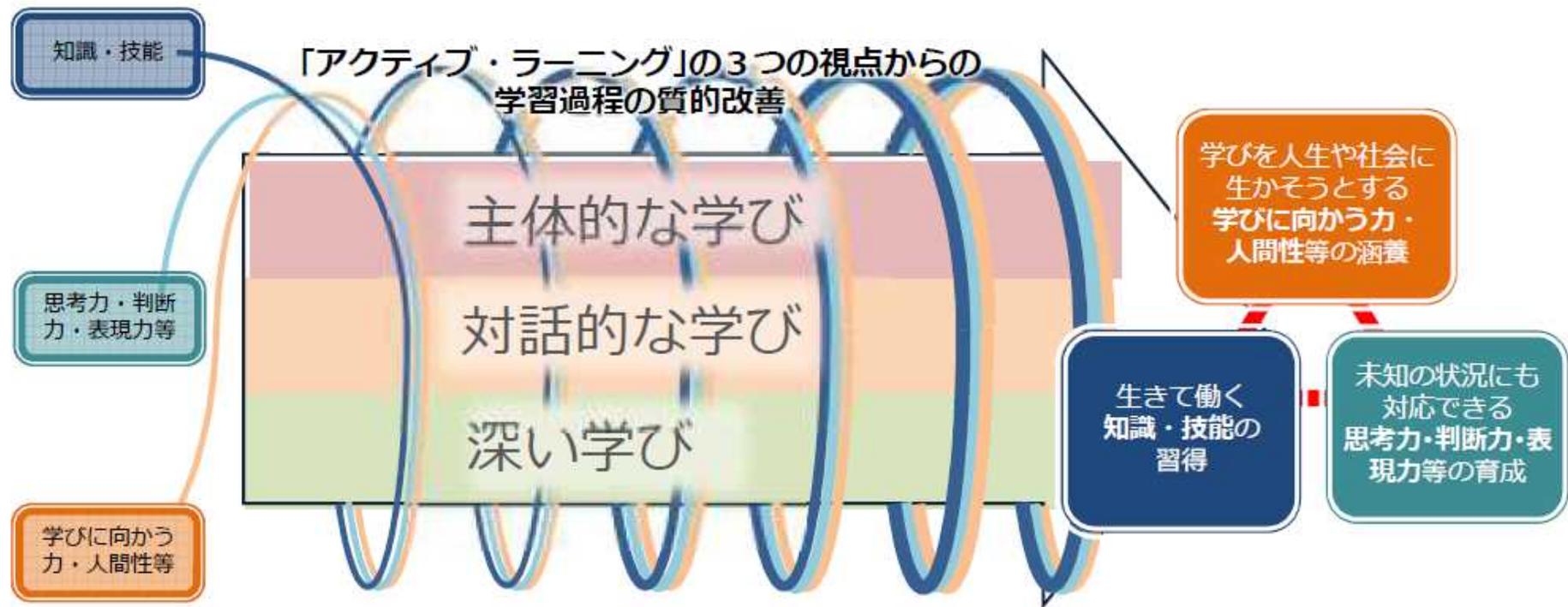


静岡県総合教育センター
専門支援課 特別支援班

育成を目指す資質・能力の三つの柱



資質・能力の育成と 主体的・対話的で深い学びの関係



どのように授業改善すればよいのでしょうか。

学習指導要領の目標や内容を明確にし（押さえる）、子供たちの実態等を捉えた上で、「**解決したい課題や問い**」、「**考えるための材料**」、「**対話と思考**」、「**学習の成果**」の4項目を意識し、**授業を構想していきましょう**（仕掛ける）。そうすることで、子供たち一人一人が見通しを持って学習に取り組み、自ら学習を振り返って次の学びに向かうことにつながります。

アクティブ・ラーニング

課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び



アクティブ・ラーニングの視点からの授業設計

2 教材のねらい（単元としてのねらい、単元の中の位置づけ、生徒に期待する学習など）

単元名：修学旅行に行こう！（生活単元学習 全11時間）

単元のねらい：自分で持ち物を準備することができる。（知識・技能）

やりたい活動や買いたい土産などを考えることができる。（思考力・判断力・表現力）

楽しみにしていることや楽しかったことなどを伝えることができる。（思考力・判断力・表現力）

行き先や活動内容を知り、6年生みんなで修学旅行に行くことを楽しみにすることができる。

（主体性・多様性・協働性）

本時のねらい：友達と話し合い、ホテルの部屋割りを考えることができる。（思考力・判断力・表現力）

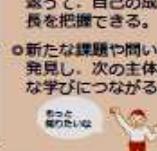
3 授業の展開（本時：4/11時間）

時間配分

	解決したい課題や問い 解決したい課題や問い	ホテルでは、誰が、どの部屋に泊まるのかな？	導入 (5分)	
	授業開始時に想定される児童生徒のあらわれ ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性・多様性・協働性	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇ホテルに泊まるんだよね。・・・① ベッドで寝るのかな？布団かな。・・・② みんなで同じ部屋に泊まるのかな。・・・② 〇〇君と一緒に泊まるのは楽しみだな。・・・③ 		
	考えるための材料A 3部屋の図 (各部屋ベッド2、布団2)	考えるための材料B 児童6人の顔写真 (男子4人、女子2人)	展開1 (15分)	
	想定される活動 <ul style="list-style-type: none"> 僕は1号室にしたいな。 私も1号室のベッドにしようかな。 私はここがいいな。 〇〇君はどうするの？ 	想定される活動 <ul style="list-style-type: none"> 自分が泊まりたい場所に顔写真を貼るよ。 1号室と2号室に分かれたね。3号室は使わなくていいの？ 男の子と女の子は同じ部屋でいいの？ 先生たちも一緒に寝るの？ 		想定される活動 <ul style="list-style-type: none"> 全部の部屋に先生がいたほうが安心するね。 男の子と女の子は部屋を分けよう。
	教師の押さえ <ul style="list-style-type: none"> 言葉や指さしなどで、どの児童も自分の気持ちが伝えられているか確認する。 	教師の押さえ <ul style="list-style-type: none"> 先に伝えた児童から場所が決まることにならないよう、複数の顔写真が貼れるようにする。 		教師の押さえ <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の児童の考えを、全体に伝えながら整理する。
	対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）		展開2 (15分)	
	誰が、どの部屋に泊まるのか決めよう。 <ul style="list-style-type: none"> 女の子が一部屋を使えばいいね。何号室にする？ 男の子は4人だから、2人ずつに分かれればいいんじゃないかな。 〇〇君はどの部屋がいいの？ほくは、〇〇君と同じ部屋がいいな。 校長先生は、どっちの部屋がいいかな。いろいろ教えてあげなきゃ。 			
	学習の成果	部屋割りに関する板書を手掛かりに、自分のノートに記録 校長先生や養護教諭に、決まった部屋割りを知らせたいと思うようになる。 ホテルの過ごし方（風呂や食事）についても知りたいと思うようになる。	まとめ (10分)	
	授業終了時に想定される児童生徒のあらわれ ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性・多様性・協働性	<ul style="list-style-type: none"> 誰が、どの部屋に泊まるのかが分かる。・・・① 部屋割りが男女別であることや各部屋に教師がいることについて、自分なりに説明できる。・・・② 同じ部屋に泊まる友達や教師が分かり、ホテルに泊まることを楽しみにすることができる。・・・③ 		

アクティブ・ラーニングの視点からの授業診断

解決したい課題や問い	
 <p>ホテル、食事、露天風呂の写真を、自分のノートに貼っている様子。写真を見ながら、気付いたことを話す様子が見られた。</p>	<p>○解決したい課題を提示した場面について</p> <p>宿泊する施設をイメージできるように、ホテル、食事(バイキング形式)、露天風呂の写真を3枚提示した。児童からは、「大きなホテル」「きれいだね」「楽しみ」「本当に泊まるの？」などという発言が出た。</p> <p>部屋の図を提示しながら、「誰が、どの部屋に泊まるのか」について問い掛けると、図を指さして泊まりたい部屋を伝える様子が見られた。</p> <p>★課題についての教師の評価</p> <p>写真や図を使用することによって、宿泊施設のイメージをもつことができ、楽しみな気持ちになったり疑問が出てきたりしたと思われる。</p>
考えるための材料	
 <p>泊まりたい部屋や場所に自分の顔写真を貼っている様子。希望を伝えたり譲ったりなど、写真を使いながらやりとりする様子が見られた。</p>	<p>○考えるための材料を活用しながら学習に取り組んだ場面について</p> <p>部屋の図を提示すると、数名の児童が前に出てきて、自分が泊まりたい部屋や場所(ベット、布団)を指さして伝える様子が見られた。</p> <p>顔写真を渡し、どの部屋に泊まりたいかを聞いた。同じ場所に顔写真を貼る友達を見て譲ろうとしたり、友達と同じ部屋にしたいと希望を変えたりする児童がいた。顔写真を媒介にやりとりする様子が見られた。</p> <p>★材料についての教師の評価</p> <p>顔写真を貼ることで互いの気持ちを知ることができ、全員の写真が貼られた教材を見て、自分はどうしたいかを考えることができたと思われる。</p>
対話と思考	
 <p>前に出て、二部屋を男子が使えばいいことを説明している様子。「着替えのとき、恥ずかしいでしょ！」という理由を聞いて理解できた児童もいた。</p>	<p>○対話や思考した場面の様子について</p> <p>男女で部屋を分けることに気付いた児童がいなかったため、部屋でやることを一つずつシミュレーションした。着替えがあることに気付くと、部屋を分けた方がいいことやその理由を説明することができた児童がいた。</p> <p>★対話や思考の場面についての教師の評価</p> <p>部屋でやることをシミュレーションしたことで、具体的なイメージがもてたとと思われる。</p>
学習の成果	
 <p>自分のノートに、泊まる部屋を記録している様子。男女で部屋を分けたことについて自分なりに説明できた。</p>	<p>○学習の成果を実感した場面の様子について</p> <p>各自、誰が、どの部屋に泊まるかについてノートに記録した。</p> <p>★学習の成果についての教師の評価</p> <p>学習後に、「校長先生と保健室の先生に教えてあげなきゃ！」と知らせに行く姿が見られた。食事の席も決めたいと伝えてくる児童がいた。</p>

<p>解決したい課題や問い</p>  <p>△課題や問いが明確ではない。</p>	<p>解決したい課題や問いはあるが、解決に対話が必要としない。</p>	<p>△課題や問いに対する活動の幅が広すぎて、活動が焦点化されにくい。</p>	<p>○課題や問いに対する活動が焦点化され、深い学びに向かう対話につながる。</p> 
<p>考えるための材料</p>  <p>△考えるための材料がない。</p> <p><small>材料とは、資料、道具、教材など教師が事前に準備しておくもの。</small></p>	<p>△考えるための材料はあるが、課題や問いに対する解決策が明示されてしまっている。</p> <p>△材料や解決策を、事前に教師が説明してしまう。</p>	<p>○複数の視点や立場から考えるための材料がある。</p> <p>△限定的な考えに誘導するものである。</p>	<p>○複数の視点や立場から考えるための材料があり、それらと比較、統合することで、深い解決策や答えにつながる。</p> 
<p>対話と思考</p>  <p>△対話を通して考える時間がない。</p> <p><small>対話とは、課題や問いに対して考えがぶつかりあったりする場面のやりとりのこと。</small></p>	<p>△対話を通して考える時間が確保されているが、各自がまとめた内容を紹介するだけである。</p>	<p>○対話を通して考える時間が確保されている。</p> <p>△教師の過度な助言により、対話や思考が抑制されてしまう。</p>	<p>○対話を通して考える時間が十分確保され、解決策や答えを深めていくような建設的なやりとりがなされる。</p> 
<p>学習の成果</p>  <p>△活動だけで知識・技能を習得できない。</p>	<p>△知識・技能の活用範囲が狭い形の習得にとどまっている。</p>	<p>○学んだことを自分の言葉で表現でき、知識・技能の活用範囲が広がり、振り返りを通して、自己の成長を把握できる。</p> <p>△課題や問いを解決することで満足し、そこに新たな課題や問いが生まれにくい。</p>	<p>○学んだことを自分の言葉で表現でき、知識・技能の活用範囲が実社会や実生活まで広がり、自ら振り返って、自己の成長を把握できる。</p> <p>○新たな課題や問いを発見し、次の主体的な学びにつながる。</p> 

アクティブ・ラーニングの視点による授業実践を振り返って

○成果と課題

関心のある内容について取り上げると共に、児童個々について、何を、どこまで考えさせるのかを事前に整理しておくことが大切であると感じた。今回、どの部屋に泊まるかが分かった児童、同じ部屋の友達が分かった児童、男女別にすることが分かった児童など様々であったが、どの児童も自分なりに考えることができたと思われる。

授業実践サポート研修② 演習の流れ

(1) 授業実践の報告 (20分)

(2) 特別支援学校における「深い学び」
「対話と思考」について (25分)

(3) 全体共有 (10分)

(1) 授業実践の報告・共有(20分)

- ・一人ずつ [取組と成果・課題の説明→意見交換]
繰り返す
- ・ **共有の視点**
→アクティブ・ラーニングの視点からの授業づくり
授業分析を通して得られた、**成果と課題**

[時間配分の例]

3人グループ：4分(説明) + 2分(質疑応答)

4人グループ：4分(説明) + 1分(質疑応答)

2 教材のねらい (単元としてのねらい、単元の中の位置づけ、生徒に期待する学習など)
 単元名: 修学旅行に行こう! (生活単元学習 全11時間)
 単元のねらい: 自分で持ち物を準備することができる。(知識・技能)
 やりたい活動や買いたい土産などを考えることができる。(思考力・判断力・表現力)
 楽しみにしていることや楽しかったことなどを伝えることができる。(思考力・判断力・表現力)
 行き先や活動内容を知り、6年生みんなで修学旅行に行くことを楽しみにすることができる。
 (主体性・多様性・協働性)
 本時のねらい: 友達と話し合い、ホテルの部屋割りを考えることができる。(思考力・判断力・表現力)

3 授業の展開 (本時: 4/11時間)

解決したい課題や問い	ホテルでは、誰が、どの部屋に泊まるのかな?	時間配分	導入 (5分)
授業開始時に想定される児童生徒のあらわれ ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性・多様性・協働性	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇ホテルに泊まるんだよね。・・・① ベッドで寝るのかな? 布団かな。・・・② みんなで同じ部屋に泊まるのかな。・・・② 〇〇君と一緒に泊まるのは楽しみな。・・・③ 		

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C	展開1 (15分)
3部屋の図 (各部屋ベッド2、布団2)	児童6人の顔写真 (男子4人、女子2人)	教職員4人の顔写真 (男性2人、女性2人)	
想定される活動	想定される活動	想定される活動	
<ul style="list-style-type: none"> 僕は1号室にしたいな。 私も1号室のベッドにしようかな。 私はここがいいな。 〇〇君はどうするの? 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が泊まりたい場所に顔写真を貼るよ。 1号室と2号室に分かれたね。3号室は使わなくていいの? 男の子と女の子は同じ部屋でいいの? 先生たちも一緒に寝るの? 	<ul style="list-style-type: none"> 全部の部屋に先生がいたほうが安心するね。 男の子と女の子は部屋を分けよう。 	
教師の押さえ	教師の押さえ	教師の押さえ	
<ul style="list-style-type: none"> 言葉や指さしなどで、どの児童も自分の気持ちが伝えられているか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 先に伝えた児童から場所が決まることがないよう、複数の顔写真が貼れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の児童の考えを、全体に伝えながら整理する。 	

対話と思考 (対話を通した協働的な問題解決のプロセス)		展開2 (15分)
誰が、どの部屋に泊まるのか決めよう。		
<ul style="list-style-type: none"> 女の子が一部屋を使えばいいね。何号室にする? 男の子は4人だから、2人ずつに分かれればいいんじゃないかな。 〇〇君はどの部屋がいいの? ぼくは、〇〇君と同じ部屋がいいな。 校長先生は、どちらの部屋がいいかな。いろいろ教えてあげなきゃ。 		

学習の成果	部屋割りに関する板書を手掛かりに、自分のノートに記録 校長先生や養護教諭に、決まった部屋割りを知らせたいと思うようになる。 ホテルの過ごし方 (風呂や食事) についても知りたいと思うようになる。	まとめ (10分)
授業終了時に想定される児童生徒のあらわれ ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性・多様性・協働性	<ul style="list-style-type: none"> 誰が、どの部屋に泊まるのかが分かる。・・・① 部屋割りが男女別であることや各部屋に教師がいることについて、自分なりに説明できる。・・・② 同じ部屋に泊まる友達や教師が分かり、ホテルに泊まることを楽しみにすることができる。・・・③ 	

解決したい課題や問い

	<p>〇解決したい課題を提示した場面について</p> <p>宿泊する施設をイメージできるように、ホテル、食事(バイキング形式)、露天風呂の写真を3枚提示した。児童からは、「大きなホテル」「きれいだね」「楽しみ」「本当に泊まるの?」などという発言が出た。</p> <p>部屋の図を提示しながら、「誰が、どの部屋に泊まるのか」について問い掛けると、図を指さして泊まりたい部屋を伝える様子が見られた。</p> <p>★課題についての教師の評価</p> <p>写真や図を使用することによって、宿泊施設のイメージをもつことができ、楽しみな気持ちになったり疑問が出てきたりしたと思われる。</p>
---	--

考えるための材料

	<p>〇考えるための材料を活用しながら学習に取り組んだ場面について</p> <p>部屋の図を提示すると、数名の児童が前に出てきて、自分が泊まりたい部屋や場所(ベッド、布団)を指さして伝える様子が見られた。</p> <p>顔写真を渡し、どの部屋に泊まりたいかを聞いた。同じ場所に顔写真を貼る友達を見て譲ろうとしたり、友達と同じ部屋にしたいと希望を変えたりする児童がいた。顔写真を媒介にやりとりする様子が見られた。</p> <p>★材料についての教師の評価</p> <p>顔写真を貼ることで互いの気持ちを知ることができ、全員の写真が貼られた教材を見て、自分はどうしたいかを考えることができたと思われる。</p>
---	---

対話と思考

	<p>〇対話や思考した場面の様子について</p> <p>男女で部屋を分けることに気付いた児童がいなかったため、部屋でやることを一つずつシミュレーションした。着替えがあることに気付くと、部屋を分けた方がいいことやその理由を説明することができた児童がいた。</p> <p>★対話や思考の場面についての教師の評価</p> <p>部屋でやることをシミュレーションしたことで、具体的なイメージがもてたと思われる。</p>
--	---

学習の成果

	<p>〇学習の成果を実感した場面の様子について</p> <p>各自、誰が、どの部屋に泊まるかについてノートに記録した。</p> <p>★学習の成果についての教師の評価</p> <p>学習後に、「校長先生と保健室の先生に教えてあげなきゃ!」と知らせに行く姿が見られた。食事の席も決めたいと伝えてくる児童がいた。</p>
---	--

アクティブ・ラーニングの視点による授業実践を振り返って

〇成果と課題

関心のある内容について取り上げると共に、児童個々について、何を、どこまで考えさせるのかを事前に整理しておくことが大切であると感じた。今回、どの部屋に泊まるかが分かった児童、同じ部屋の友達に分かった児童、男女別にすることが分かった児童など様々であったが、どの児童も自分なりに考えることができたと思われる。

解決したい課題や問い

考えるための材料

対話と思考

学習の成果

特別支援学校における 授業改善の方向性について

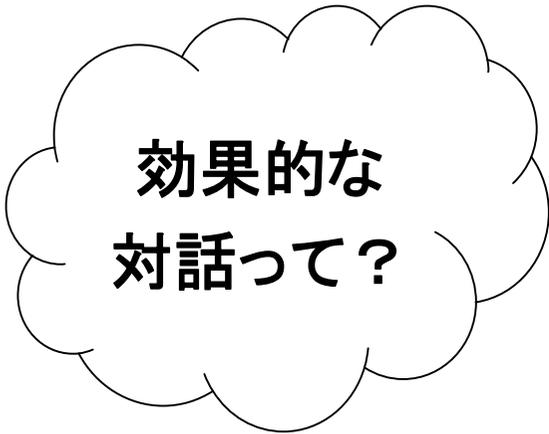
特別な支援を必要とする児童・生徒についての

- 主体的学びとは？
- 対話的学びとは？

深い学びとは？

＜効果的な授業実践の在り方＞

- 課題解決したい問い
- 考えるための材料
- 対話と思考
- 学習の成果



効果的な
対話って？

さらに授業を改善するために

ワークシート1 (ALの視点からの授業実践 評価・改善シート)

所属() 氏名()

担当する児童・生徒にとって、資質・能力を育てる「深い学び」とは、どんな姿でしょうか？
※場面、何を思考・判断、どのように表現

※各教科などで習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、同いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう

●「深い学び」につながる「対話と思考」とは？

	深い学びにつながる 効果的な「対話 思考」の捉え方
対話 と 思 考	

「深い学び」の捉え方

効果的な
「対話と思考」の在り方

(2) 特別支援学校における「深い学び」 「対話と思考」について (25分)

①児童生徒にとっての「深い学び」について(個人)・・・3分

②グループ 自由討議・・・8分

「児童生徒の深い学びとは？」



どんな場面？

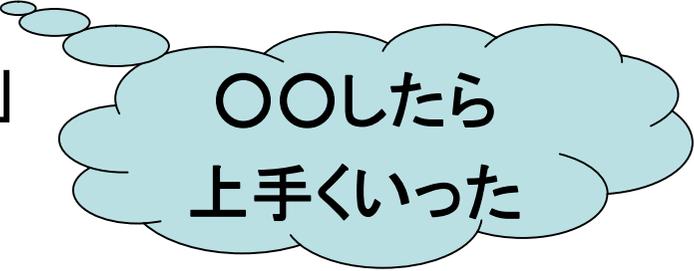


どんな姿？

③効果的な「対話と思考」について(個人)・・・3分

④グループ 自由討議・・・8分

「効果的な対話と思考とは？」



〇〇したら
上手くいった

(3) 全体共有 (10分)

○全体発表(2名)

各5分×2

ア：「実践の取組」と「成果と課題」について

イ：子どもたちの「深い学び」、資質能力を育てる
「対話と思考」について

パワポ資料①-C 資質・能力を育む これからの授業づくり

